

ジャーナリストとして大切にしていること

樫田 秀樹
ジャーナリスト

報道しないメディア

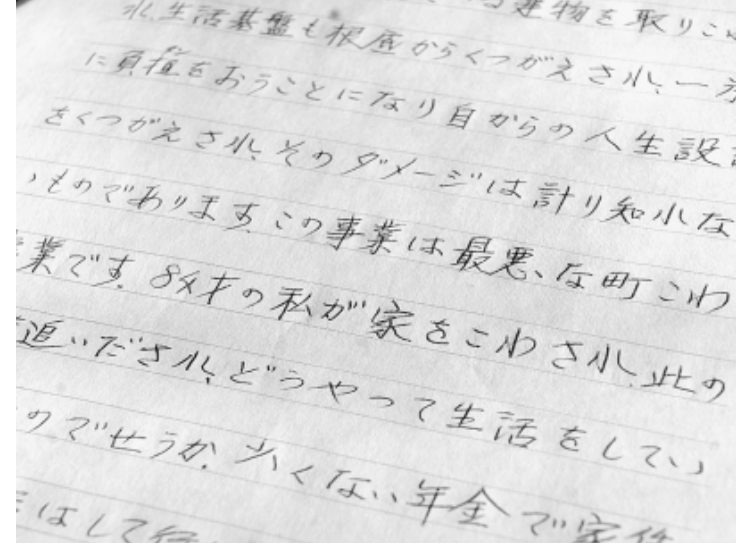
スポンサーへの忖度が壁

2月10日、東京土建機関紙コンクール表彰式で、ジャーナリストの樫田秀樹さんが「ジャーナリストとして大切にしていること」と題して講演しました。樫田さんはマスコミが報道しない問題を市民に動いてほしいとの考えで取材を続けており、ここで紹介するリニア中央新幹線とスーパー堤防



樫田さん

マスコミのスポンサーへの忖度があります。原発でしたら東芝とかあります。ある大学生がマスコミの記者になりたいと、某大手新聞社に会社訪問で行ったところ、担当



スーパー堤防で立ち退いた高齢女性の手記 (写真: 樫田秀樹)

「どこかであなただけは原発のデモには参加していませんよ」といわれたそうです。ですから今でも原発の検証記事を書けるのは東京新聞とか赤旗とか一部のメディアに限られています。

もちろん闘ったメディアもあります。2003年当時、サラ金問題が非常に社会問題

東京都江戸川区で建設しているスーパー堤防があります。土手の幅を200〜300メートルくらい延ばして丈夫な堤防を作る。洪水で越水しても決壊しない堤防を作るといのが国交省の売りです。

立ち退き、裁判に取材なし
町壊しのスーパー堤防

実際、北小岩1丁目の90世帯のほとんどの方が金銭補償で立ち退きましたが、終の棲家として住んでいるのになん

減っていく
熱意ある記者
それでは記者はどうなのか。記者そのものの資質です。

放送しない
安倍NHK
品川から名古屋の間には5000人の地権者がいます。

化し、厳しい取り立てで、あちこちで破産する人や自ら命を絶つ人が増えています。ところがサラ金問題を糾弾するメディアがなかなかいなかった。とくに最大の武富士については口をつぐんだように報道しなかった。テレビ、雑誌のスポンサーだからです。週刊プレイボーイは武富士の広告を出していません。



リニア実験線で水が枯れた沢 (写真: 樫田秀樹)

つぶされたリニア取材
JR東海の圧力は明らか

数年前に一人のやる気のある女性記者が、東京新聞の「こちら特報部」でリニアの問題をやるというところで取材しました。それを事前に察知したJR東海の役員

これまでの公共事業の事例をみるとおそらく90%の方たちは補償金などで妥協して土地を譲りますが、中には絶対に譲らない方がいます。実際にリニアのルートでは立木トラストとか土地トラストを始めた方がいます。仮に5000人の1%でも50人です。

長野県のある地方新聞の記者の方に、どんな学生が会社訪問に来ますかと聞いたら、本気で記者になろうという魂をもった学生はほとんどいない。うちの会社も受けるけれども三菱商事、テレビ東京、日清食品も受ける。業種はばら

ばらで、共通しているのはブランドの企業ばかりということ。マスコミもその一つとみられているだけで、社会的に何かを報道しようという熱意を持ってくる学生は減っている。私も尊敬する記者は各社に1人か2人いますが、全体的に減っているかと思

私の尊敬する記者で、すでに定年退職した人ですが、現役時代にどうしてもやりたい取材があった。カナダの原生林で天昭和製紙が森を切っている。先住民が困っている。

関心をもった彼は企画を出したがる。それで1週間くらい有給休暇をとり、自分の金で航空券を買い、ガイドも手配して現地に行って記事を書き、デスクに「これ載せませんか」と迫り、記事を書かせたという熱意のある人もいました。ところが今、この新聞社ではそういう手法の記事は一切受け付けないと決めています。ですからこれも記者のやる気を削いでいます。

疑問なのは、NHKにはスポンサーがないのに、なぜ報道しないのかということ。NHKは会長がいて、その下に経営委員会という最高意思決定機関があります。会長も経営委員会もNHKの職員ではありません。経営委員会は内閣総理大臣が指名し国会が承認します。安倍首相の経済ブレーンの「四季の会」の中心人物がJR東海の葛西名誉会長です。彼の意志で経営委員会や会長が決まっています。ですからNHKではリニアや森友問題もともに扱